

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	鈴木優成	学校名	千葉県立東金特別支援学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	1年生～3年生（7名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年7月～令和3年2月（13時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間「東金タイム ボランティアサークル」		
2. 題材(活動)名：友達と協力して社会貢献活動に取り組もう～僕たち、私たちにできること～		
3. 授業テーマ（タイトル）と目標 授業テーマ 友達と協力して社会貢献活動に取り組もう。 目標 ・友達と協力しながら自分の得意な力を生かして社会貢献活動に取り組むことができる。 ・社会貢献活動に取り組むことを通して、達成感を感じたり、自己有用感を高める経験を重ねたりすることで、社会的な課題の解決に向けた活動に自分から取り組もうとする意欲や態度を身につける。 関連する学習指導要領上の目標 横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。		
4. 題材の評価規準	①知識及び技能	難民について知り、「もし自分が難民だったら」と考えることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	難民について考えたことや感じたこと、社会貢献活動での取り組みを発表することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	難民に関心をもって、自分から友達と協力して社会貢献活動に取り組むことができる。
5. 題材設定の理由・題材の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【題材について】 難民について学び、社会貢献活動「届けよう 服のチカラプロジェクト（以下、服のチカラ）：株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ、ジーユー）」に参加する。難民の人々のために子ども服を回収し、服を届ける活動である。 【題材設定の理由】 学習指導要領前文にある「持続可能な社会の創り手の育成」についての記述や特別支援学校学習指導要領第5章にある社会と関わる体験活動についての記述を踏まえて設定している。生徒に社会とのつながりを感じてほしいと願い、地域や企業と協力して社会貢献活動に取り組む本題材を設定した。 【題材の意義】 社会貢献活動に参加し、活動の成果を知ること、他者の役に立つ喜びや達成感を感じると共に、自己有用感を高めることができる。また、協働的に活動に取	

り組むことで、他者との関わりが増え、コミュニケーション力や人間関係の形成の力なども高めることができる。さらに、社会的な課題に対して、自分たちにできることは何かを考えて、行動することの楽しさや喜びを感じることも期待できる。 【生徒観】 主に知的障がいをもっている1～3年生の7名である。これまで、難民について学習したことや地域のボランティア活動に参加した経験はないが、友達や教師と一緒に学習をしながら活動に取り組むことで、意欲的に社会貢献活動に参加する姿が期待できる生徒達である。 学校内の学習では、自信をもって取り組める活動が増え、様々な場面で成功体験を重ねる経験をしてきている。学校外と連携した社会貢献活動への参加を通して、自己肯定感、自己有用感を高めることで、主体的な社会参加へとつながることを期待している。 【指導観】 文部科学省は持続可能な開発のための教育の「学び方・教え方」について「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成を通じて、具体的な行動につなげる」と示している。また、「知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとる」ともある。それらを踏まえ、本題材では、「知ろう、学ぼう」→「伝えよう」→「行動しよう」の流れを意識し、実践していく。 学習前半は、難民の人々に思いを寄せながら、自分達にできることは何かを考えることができるように「知ろう、学ぼう」の観点を意識した授業に取り組む。最初に、「服のチカラ」協力企業から講師を招き、難民の人々の様子や「服のチカラ」の目的や活動について学ぶ。さらに、「もし自分が難民だったら」と考えながら、難民シミュレーションやワークショップ形式の学習に取り組み、難民に対する理解を深めていきたい。 題材後半では、「伝えよう」を意識し、生徒のアイデアを生かしたチラシの配布や校内掲示物の作成、集会発表の準備に取り組む。他者とのつながりを感じることができるようにしたい。また、「行動しよう」として、子ども服回収箱の作成、回収、箱詰め、発送などの体験活動に取り組む。その際、生徒一人一人に合わせて活動や補助具を準備し、生徒が得意な力を生かして活動に取り組むことができるようにする。 これら体験的な学習での学びを生かして、身近な課題に気づき、課題解決に向けた活動に自分から取り組もうとする姿へつながることを願っている。				
6. 題材計画（全12時間）				
時	小題材名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	年間計画を立てよう。	学習の見通しと期待感をもつ。	○前年度の取り組みの振り返り。 ○年間活動計画についての話し合い。	年間学習計画

2～3	ユニクロ社員の出張授業を聞いて学ぼう。	「服のチカラ」参加への期待感をもつ。	○ユニクロ社員による出張授業の準備。 ○ユニクロ社員による出張授業。	ユニクロ出張授業スライド
4～5 本時 6	「もし自分が難民だったら」と考えてみよう。	「もし自分が難民だったら」と考える。	○難民シミュレーション ○あるものないものワークショップ	スライド教材
7～10	「服のチカラ」に取り組もう。	「服のチカラ」に取り組む。	○「服のチカラ」活動 ・回収箱、チラシ、校内掲示物を作成する。 ・子ども服の回収、箱詰め、発送をする。	
11～13	学校、地域のために活動をしよう。	身近な活動に取り組む。	○身近な社会貢献活動	

7. 本時の展開（4・5時間目） 本時のねらい： 4時間目・「もし自分が難民だったら」と考えながら、避難時に必要だと思うアイテムを考えたり、それを選んだ理由を友達と話し合ったりすることができる。 5時間目・避難時の困難を知り、「もし自分が難民だったら」と考えることができる。 ・難民の写真を見て、気づいたことを発表することができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
4時間目 導入 （10分） （10分）	○前時を振り返る。 ・難民の様子や社会貢献活動の意義、活動の流れを確認する。 ○難民シミュレーション ・設定とルールを知る。	・生徒が理解しやすいように、写真や分かりやすい言葉をスライドに使用する。 ・設定は生徒が理解しやすい内容とし、分かりやすい言葉で伝える。	スライド
【難民シミュレーションの設定とルール】 自分たちが住むリナサーマ王国で争いが起こり、家族と一緒に隣国ワイヘナ王国へ避難する。その際に持ち出すアイテムを5つ選ぶ。避難中の困難にアイテムで対処できると避難ルートマップのマスをも一つ進むことができる。			
展開 （15分） （10分）	・避難時に持っていくアイテムを5つ選ぶ。 ・選んだアイテムとその理由を発表する。	・話し合いながらアイテムを選ぶことができるように、少人数のグループを作る。 ・アイテム一覧表を用意しておく。 ・発表前に、アイテムを選んだ理由を教師と一緒に確認しておく。	アイテム一覧表
5時間目 （20分）	・避難中の困難に対処できるアイテムを選んでいるかを確認する。 ・アイテムで対処できた場合は避難ル	・避難中の困難が分かりやすいようにイラストを提示する。 ・生徒の様子に合わせて、個別に内容	避難ルートマップ

まとめ (15分)	ートマップのマスを一つ進める。 ・ワイヘナ王国に避難できたか確認し、 難民シミュレーションの振り返りを行 う。 ・難民の人々の写真を見て、気づいた ことを発表する。	の補足説明をする。 ・避難ルートマップを確認しながら、 振り返りを行なう。 ・実際の避難の様子から気づいたこと を発表できるように難民の写真を 提示する。	
(10分)	・国境なき医師団作成の「難民すごろ く」を知り、避難の困難さを考える。 ・感想を発表する。 ・次時の授業について知る。	・難民すごろくが避難の困難さを表現 していることを伝える。 ・感想を考える時間を取り、教師と話 し合って良いことを伝える。	「難民すごろ く」

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

4時間目【行動観察・ワークシート（アイテム一覧表）】

- ・「もし自分が難民だったら」と考えながら、難民が避難時に必要だと思うアイテムを考えたり、それを選んだ理由をワークシートに記入したりすることができたか。

5時間目【行動観察・ワークシート（アイテム一覧表）】

- ・避難時の困難に対して、選んだアイテムで対処できるかを考えていたか。
- ・難民シミュレーションと関連づけて、難民の写真を見て気づいたことを発表することができたか。

9. 学習方法及び外部との連携

「届けよう服のチカラ」への参加

- ・JICA から「服のチカラ」の情報をいただき、総合的な学習の時間である東金タイムの「ボランティアサークル」にて、難民について学習をしながら活動に参加した。
- ・活動参加への導入として、ユニクロの社員に出張授業をしていただいた。難民の人々の様子や「服のチカラ」の意義や目的、SDG'sについて話を聞いた。
- ・生徒のアイデアを生かした子ども服回収箱の作成や、服を手渡している様子を描いたチラシの配布、自分達で考えた原稿での全校への校内放送など「服のチカラ」に関連した学習機会を多く設定した。

「難民シミュレーション」

- ・簡単なすごろくゲームの要素を取り入れた。
- ・「もし自分が難民だったら」と考えることができるように、架空の国「リナサーマ王国」から「ワイヘナ王国」まで避難する設定で、難民の避難を疑似体験した。友達の顔写真を貼りつけた「すごろくのこま」を作成する活動を取り入れ、すごろくの要素があることやグループの友達が分かるようにした。
- ・避難する際に持ち出すアイテムを考える時間を設けた。その際、話し合いをしやすいようにグループを3～4人で構成し、「家族」と設定した。また、アイテム一覧表を用意した。



避難ルートマップ

「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」

- ・難民の人々と自分たちの生活を比較しながら「あるもの」と「ないもの」に注目し、難民についての気づきを得るワークショップに取り組んだ。国連 UNHCR 協会の方から承諾をいただき、スライド資料の一部を本校の生徒の理解に合わせて修正した。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- 学部会での学習指導案の提案と学部会資料としての管理職への回覧。
- 職員会議での本活動の連絡。
- 社会貢献活動協力を依頼するチラシの作成と全校児童生徒への配布。
- 校内放送での全校児童生徒、教職員への告知。
- 生徒の学習の様子や教材の校内掲示。



校内掲示物

【自己評価】

11. 苦勞した点	・感染症の影響による長期の休校もあり、「服のチカラ」の活動期間と授業時間の調整が難しかった。 ・生徒の理解する力や得意な力が一人一人異なっているので、生徒に合わせた手立ての工夫や目標設定に努力した。
12. 改善点	・「服のチカラ」の活動の様子や難民の人々の様子を多くの人に伝える機会を設けていきたい。 ・協力企業や地域とのつながりをより意識できる校外学習や、外部講師を招いての出前授業等、難民への関心を高める授業を計画していきたい。
13. 成果が出た点	「服のチカラ」への参加 ・出張授業では、多くの質問がされ、活発な学びの機会となった。 ・「服のチカラ」の活動に意欲的に取り組み、700枚の子ども服を集めることができた。活動の成果が分かりやすく、達成感を感じている様子が見られた。 ・活動後のアンケートでは、「今後もボランティア活動に組みたい」と生徒全員が答えていた。「地域のごみ拾いをしたい」と活動を提案する生徒もいた。 「難民シミュレーション」 ・生徒が互いに意見を伝える場面が多くあり、「もし自分が難民だったら」と考えて話し合いをしている様子が見られた。 ・難民の写真を提示すると、学習と関連づけ、気づいたことや考えたことを発表することができた。 ・難民を知らなかった生徒達だが、「戦争で故郷に住めなくなった」「家が壊れる前に違う国へ行く」など、自分なりに難民について説明できる生徒が5名に増えた。 「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」 ・難民の人々の生活と自分たちの生活の「あるもの」と「ないもの」に注目しながら友達と気づいたことを共有し、難民の様子について考えることができた。 ・ワークショップ後、難民の人々の役に立ちたいという気持ちを強くもった様子があった。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	「服のチカラ」への参加 ・難民の人々に関心を寄せ、活動への不安を感じつつも、頑張って取り組みたい、難民の人々の役に立ちたいという思いをもって活動に取り組もうとする



授業の様子

した。せいかいには、なんみんの人々が
たくさんいることがわかりました。
これからなんみんの人たちを
助けたいとおもいました。

おてつたいしてみたいです。
上手にできるかしんぱいです。

	様子が見られた。 難民シミュレーション ○ワークシート（アイテム一覧表）への記入 ・「もし自分が難民だったら」と考え、避難時に必要なアイテムを選ぶことができた。のどが乾くことや食べ物が足りなくなること等に気づいた様子が見られた。 「あるものないものワークショップ（国連 UNHCR 協会）」 ・難民の人々に「あるもの」と「ないもの」に注目したことで、難民の人々の様子を考えることができた。「後輩に伝える」「仲間を増やす」「チラシを配る」など、難民の人々のことを多くの人に伝え、協力して活動に取り組みたいという気持ちをもったことが分かった。
15. 授業者による自由記述（教師海外研修に参加した本学習指導案作成者として、他の教員へのメッセージなど）	2010年の教師海外研修にてブータン王国に行かせていただき、多くのことを学ばせていただいた。今年度、主にオンラインでの研修に参加させていただいたが、「持続可能な開発のための教育」を実践している先生方と出会い、多様な考え方や授業実践に触れることができ、新しい視点での刺激を多くいただいた。研修への参加を支えてくださった皆様に感謝致します。 本題材では、体験的な学習に取り組みながら、社会的な課題への関心を高めていき、生徒の意欲的な取り組みを引き出すことを目標とした。「難民シミュレーション」では、「自分が難民になったら」という視点で考え、「あるものないものワークショップ」では、自分達の日常と比べて難民について考えることができた。学習後、難民の人々のために活動しようという気持ちをもつことができ、生徒一人一人が得意な力を生かして「服のチカラ」に意欲的に取り組むことができたと感じている。また、「服のチカラ」の活動に最後まで取り組むことができたことで、達成感や社会のために行動する喜びを感じることもできたと思う。 私の目標の一つに、本校の生徒にとって分かりやすい授業となるよう教材を工夫することがあった。本実践では、生徒が積極的に授業に取り組む様子が見られたことが良かった。また、「今後もボランティア活動に参加したい」と全員がアンケートで答えていたことは嬉しかった。今後、生徒が難民のニュースなどに触れた際、本実践での学びを思い出し、何か行動しようと考えてくれると嬉しく思う。また、生徒が卒業した後、身近な社会貢献活動への参加につながると嬉しい。私自身も、持続可能な社会の担い手の一人として、今後も生徒と一緒に学び続けていきたいと思う。

参考資料：

- ・JICA 教師海外研修国内代替研修 高田裕行先生の発表資料
- ・難民についての授業の手引き 国連 UNHCR 協会
- ・難民すごろく もしあなたが難民になったら・・・ 国境なき医師団

ボランティアサークル

友だちと協力して、社会貢献活動に取り組もう
～僕たち、私たちがみんなのためにできること～



届けよう 服のチカラプロジェクト



なんみん

難民シミュレーション

おうこく

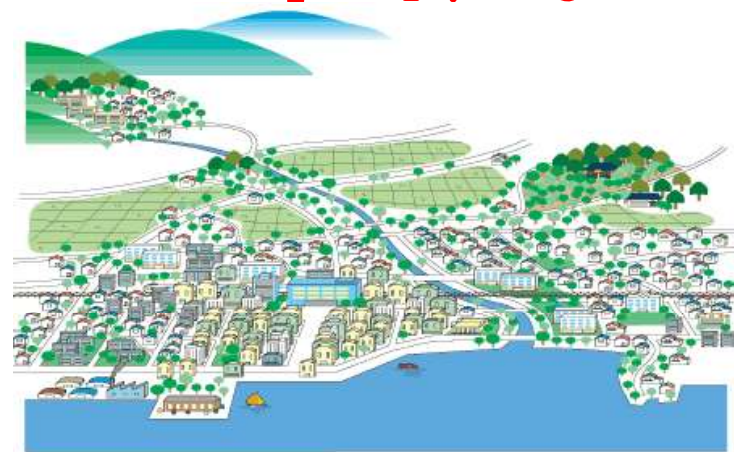
ひなん

～ワイヘナ王国へ避難しよう～

難民体験
そうぞうしてみよう。

ここは、^{おうこく}リナサーマ王国です。

あなたは、^{こくみん}リナサーマ国民
です。



難民体験
そうぞうしてみよう。

かぞく

いっしょ

みなさんは、家族と一緒に

く
暮らしています。



難民体験

そうぞうしてみよう。

^{おうこく}リナサーマ王国^{あらそ}の中で、争い^{あらそ}がおきました。



となりの家族^{かぞく}が争い^{あらそ}に巻き込まれ^ま、

けが^{けが}怪我をしました。



難民体験 そうぞうしてみよう。

あなたの^{いのち}とかぞくの命があぶないです。



となりの**ワイヘナ国**まで、急いで
にげることにしました。

すぐにげる



難民体験 そうぞうしてみよう。

くるま あらそ こわ
車は争いで壊れています。



あるいて、にげます。



もっていけるアイテムは5つ。

そこで、



持っていくアイテムを考えましょう。

- ・地図 ・毛布 ・お金
- ・テント ・水 ・スマホ ・薬
- ・食べ物 ・枕 ・ぼうし ・お菓子
- ・おむつ ・マンガ ・シャンプー
- ・マッチ ・ライト ・身分証明書
- ・サッカーボール ・フライパン その他

難民体験シミュレーション ～ワイヘナ国へ避難しよう～

避難するときにもっていくものは何ですか？もちものは5つまで持てます。
持っていく物に○をつけましょう。持っていく理由も考えて、書いてください。

テント



りゆう

おかね



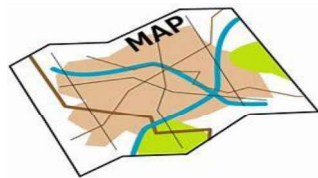
りゆう

みず



りゆう

ちず



りゆう

スマホ



りゆう

くすり



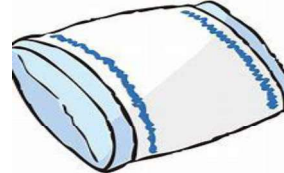
りゆう

たべもの



りゆう

まくら



りゆう

そのほか(何でもいいです。)

りゆう



なんみん

難民シミュレーション

おうこく

ひなん

～ワイヘナ王国へ避難しよう～



何を選びましたか？
りゆうは？



来週は、難民シミュレーションです。
みんなは避難ができるかな。

ボランティアサークル

友だちと協力して、社会貢献活動に取り組もう
～僕たち、私たちがみんなのためにできること～



届けよう 服のチカラプロジェクト



なんみん

難民シミュレーション

おうこく

ひなん

～ワイヘナ王国へ避難しよう～

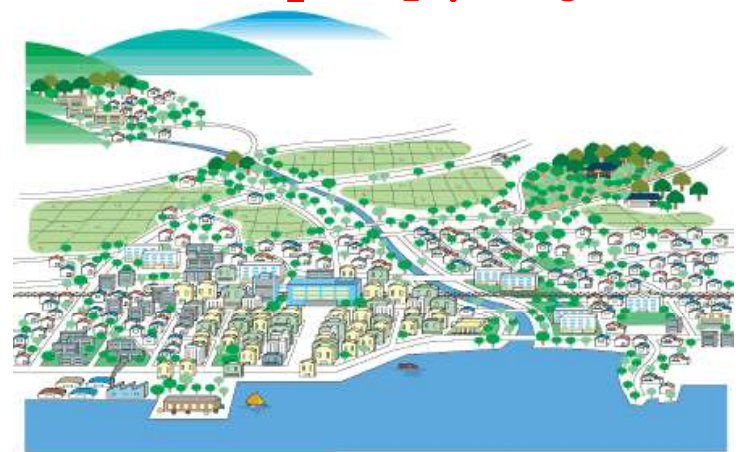
ふくしゅう

ちよつと復習 ♪ ♪

難民体験
そうぞうしてみよう。

ここは、^{おうこく}リナサーマ王国です。

あなたは、^{こくみん}リナサーマ国民
です。



難民体験
そうぞうしてみよう。

かぞく いっしょ
みなさんは、家族と一緒に
く
暮らしています。



難民体験

そうぞうしてみよう。

^{おうこく}リナサーマ王国^{あらそ}の中で、争い^{あらそ}がおきました。



となりの家族^{かぞく}が争い^{あらそ}に巻き込まれ^ま、

けが^{けが}怪我をしました。



難民体験 そうぞうしてみよう。

あなたの^{いのち}とかぞくの命があぶないです。



となりの**ワイヘナ国**まで、急いで
にげることにしました。

すぐにげる



もっていけるアイテムは5つ。

そこで、



なんみん

難民シミュレーション

おうこく

ひなん

～ワイヘナ王国へ避難しよう～

しゅっぱつ

さあ、出発！

も

おうこく

む

しゅっぱつ

5つのアイテムを持って**ワイヘナ王国**に向けて出発です。

あせ

で

汗がたくさん出てくる…

のど かわ

喉が渴いてきたな…

なに

の

⇒①何か飲みたい。

の

みず

も

飲み水は持ってる？



よる

夜になりました。

くらくなくなってきた。

あるきつかれてきたし・・・。

ねむくなってきた・・・。



⇒④どこでねる？

テントはもってる？

よる
夜です。

たくさんあるいたし……。
おなかがすてきた……。

⇒③どうする？
たべものはある？



ねる じかん

寝る時間です。

さあ、ねましょう。
でも、少しさむい。

ひつよう

⇒⑤なにが必要かな？
もうふ

毛布はもってる？



あさ、です。
しゅぱつのまえに！

かぞくのチームワークが
たいせつです。

き も
⇒気持ちをひとつに！



おな
じゃんけんで、同じにできるかな。

おなかがいたくなっていた。
せきも でてきた。



⇒⑥どうしよう？

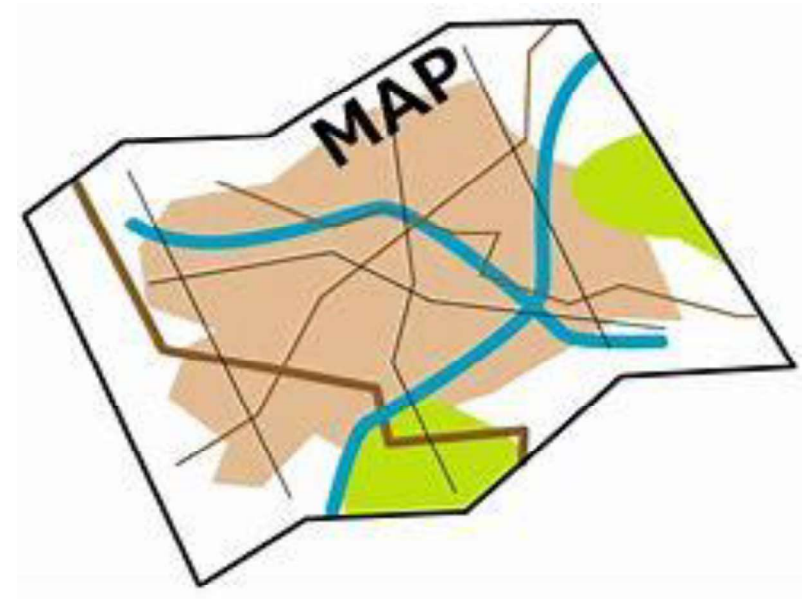
くすりはもってる？

なが みち

まだまだ長い道のり…

みちがわからない…
どうしよう。

⇒②ちずはある？





ワイヘナ王国にひなんできましたか？

たいけん
ゲームで体験をしました。

つぎ ひなん ひと ようす み
次に、難民の人たちの様子を見てみましょう。

しゃしん み き はっぴょう
写真を見て、気づいたことを発表しましょう。



トルコへ避難するシリアの難民
(写真: [Al Arabiya News](#))

* <https://ameblo.jp/wake-up-japan/entry-11873371127.html>



https://www.unhcr.org/jp/global_trends_2018

世界では108人に1人、2秒に1人が故郷を追われています。

かんそうはっぴょう

みなさんは、ゲームでたいけんしてみました。

ひなん

たいへん

でも、避難するのは大変なことですね。

ひなん

とちゅう

いのち

お

ひと

避難の途中で命を落とす人もいます。



かんそうを
かいてみよう



らいしゅう

来週は、

「あるものないものワークショップ」

なんみん

ひとびと

せいかつ

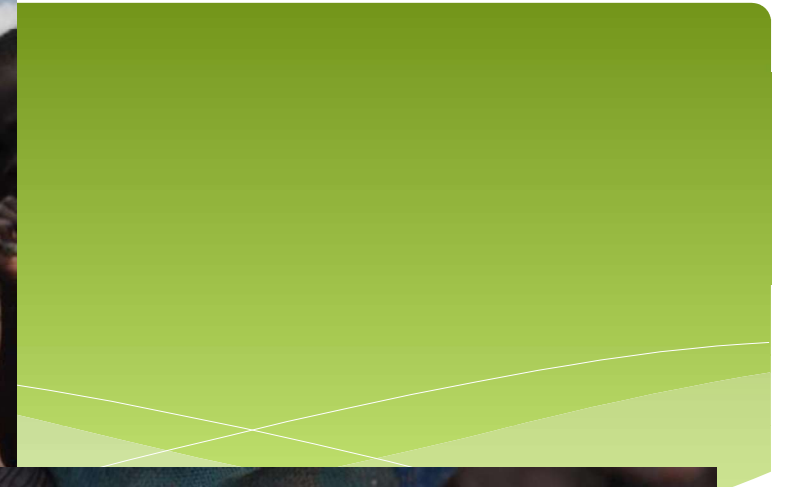
かんが

難民の人々の生活について考えてみます。



© UNICEF/UN047908/Carlisle

仮設テントに滞在する家族。(2016年12月撮影)



スーダン国境付近にあるカクマ難民キャンプ訪問。
南スーダン、ソマリア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ、エチオピア、スーダン
など13ヶ国から集まる多国籍難民キャンプ。
1992年に設営された頃は2万2千人だった難民が今では10万人を超えた。

<http://www.noguchi-ken.com/index.html>

野口健公式ウェブサイト より